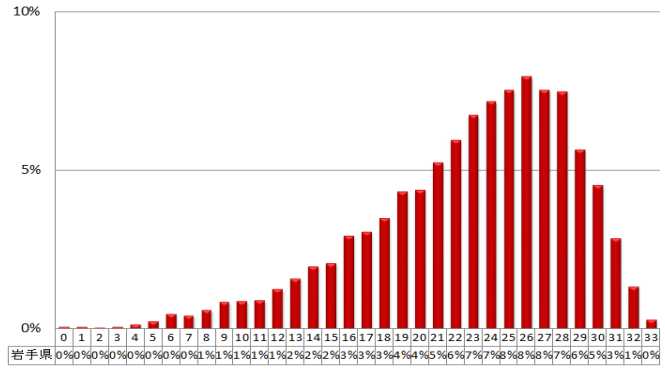
平成 27 年度岩手県中学校新入生学習状況調査　指導資料　　平成 27 年 9 月　発行　岩手県教育委員会

授業改善の手引　中学校第１学年国語

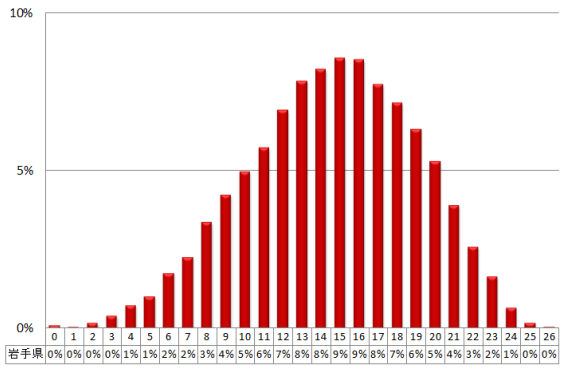
1　調査結果

(1)　分布状況

【H27】新入生学調（27 年 4 月実施）



【H26】中１県学調（26 年 10 月実施）



○　問題数は，平成 26 年度岩手県学習定着度状況調査より７問多く，正答数の最頻値は 26 問，平均正答数は，23 問です。平成 26 年 10 月実施と比較すると，正答数の最頻値よりも高い正答数の割合は 30%，低い正答数の割合は 62%で，分布の山が右に移動しています。

（正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数）

(2)　領域等の正答率

領　域　等		正答率 （　）は H26 県学調，〈　〉は H25 県学調		
話すこと・聞くこと	（ 6 問）	69%	(59%)	〈68%〉
書くこと	（ 3 問）	56%	(38%)	〈61%〉
読むこと	(11 問)	66%	(46%)	〈60%〉
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	(13 問)	75%	(67%)	〈69%〉
活用	（ 2 問）	50%	(30%)	―

(3)　結果概要

○　「話すこと」に関する全ての問題（３問）が 70%を超えています。また，平成 26 年 10 月実施の結果と比較すると，全ての領域で正答率が上回り，よい状況にあります。

○　平成 26 年 10 月実施の結果と比較すると「読むこと」の記述問題の無解答率が大きく減少し，よい状況にあります。

●　活用問題の「書くこと」の正答率は高まっていますが，無解答率の割合が 10%を占めていることから，表現様式や条件に応じた文章を書くことについて，引き続き，指導の工夫が必要な状況にあります。

●　文学的文章に比べ，説明的文章の中でも「段落相互の関係をとらえる」「必要に応じて文章の内容を要約する」「文章の構成をとらえて読む」問題の正答率が低く，中学校においても，引き続き，指導の工夫が必要な状況にあります。

(4) 小問別正答率

問題番号 大問	中問	小問	通し番号	調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択No. (%) 1 選択	2 選択	3 選択	4 選択	5 誤答	6 正答	0 無解答
1	(1)		1	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞		87					12	87	1
	(2)		2	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞		53	2	41	4	53	0		0
	(3)		3	話し合いにおける司会の役割がわかる。	5・6年「話・聞」(1)オ	話・聞		35	14	35	5	46	0		0
2	(1)		4	目的や状況に応じて話す。	5・6年「話・聞」(1)イ	話・聞		72	5	15	72	8	0		0
	(2)		5	目的や状況に応じて質問をする。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞		85	4	8	3	85	0		0
	(3)		6	目的や意図に応じて話す。	5・6年「話・聞」(1)イ	話・聞		82	12	82	3	3	0		0
3	(1)	①	7	6年配当漢字「磁石」を正しく読む。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		98					2	98	0
		②	8	6年配当漢字「迷う」を正しく読む。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		99					1	99	0
	(2)	①	9	5学配当漢字「往復」を正しく書く。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		68					26	68	6
		②	10	5年配当漢字「幼い」を正しく書く。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		78					15	78	6
	(3)		11	日常使われる敬語を正しく使う。	5・6年「伝国」(1)イ(ク)	伝国		80					18	80	2
	(4)		12	ローマ字で表記されたものを読む。	3・4年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		58	58	4	6	30	1		1
	(5)	ア	13	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる(漢字辞典、部首・画数)	3・4年「伝国」(1)イ(カ)	伝国		77					18	77	5
		イ	14	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる(漢字辞典、部首・画数)	3・4年「伝国」(1)イ(カ)	伝国		87					10	87	3
	(6)		15	和語、漢語の区別について理解する。	5・6年「伝国」(1)イ(エ)	伝国		74					18	74	8
	(7)		16	熟語の構成を意味との関わりから理解する。	3・4年「伝国」(1)イ(オ)	伝国		65	12	16	6	65	1		0
	(8)		17	文の構成について理解する。(修飾語)	5・6年「伝国」(1)イ(キ)	伝国		76	9	76	3	9	2		0
	(9)		18	ことわざの意味や使い方を理解する。	3・4年「伝国」(1)ア(イ)	伝国		66	12	7	66	14	0		1
	(10)		19	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		52					40	52	8
4	(1)		20	場面の移り変わりを読む。	3・4年「読」(1)ウ	読		77					18	77	5
	(2)		21	登場人物の気持ちを読む。	5・6年「読」(1)エ	読		87	4	7	2	87	0		0
	(3)		22	登場人物の気持ちを読む。	5・6年「読」(1)エ	読		62	62	9	19	9	0		0
	(4)		23	場面の描写と登場人物の様子を読む。	5・6年「読」(1)エ	読		52					41	52	8
	(5)		24	登場人物の気持ちの変化を読む。	5・6年「読」(1)エ	読		84	4	3	84	8	1		1
5	(1)	ア	25	文章の内容を的確に押さえて読む。	5・6年「読」(1)ウ	読		77					21	77	2
		イ	26	文章の内容を的確に押さえて読む。	5・6年「読」(1)ウ	読		84					14	84	2
	(2)		27	段落相互の関係をとらえる。	3・4年「読」(1)イ	読		48	21	23	6	48	0		1
	(3)		28	必要に応じて、文章の内容を要約する。	3・4年「読」(1)エ	読		38					52	38	10
	(4)		29	文章の要旨をとらえて読む。	3・4年「読」(1)エ	読		77	77	4	4	13	0		1
	(5)		30	文章の構成をとらえて読む。	5・6年「読」(1)ウ	読		39	14	26	39	19	0		2
6	(1)		31	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	3・4年「書」(1)イ	書		66					23	67	10
	(2)		32	文章の構成に注意して意見を書く。	5・6年「書」(1)ウ	書	活用	74					14	75	10
	(3)		33					26					61	26	13
					全体正答率			69							

２　指導のポイント

(1)　司会者、発言者の役割を位置付けた話合い活動を行いましょう。

1	(3)　話合いにおける司会の役割がわかる。	正答率 35%

ア　出題の趣旨

話合いにおける司会者の役割を理解しているかどうかをみる問題です。

話合いの場面を設定し，その中で話題に沿って司会者がどのように話合いを進行していたかとらえながら聞く力が求められます。

イ　指導上の留意点

小学校では，司会者や発言者などの役割に基づいて，協議や討論形式で，立場や意図を明確にしながら計画に沿って話合いを進める学習を経験しています。司会者の役割である発言者の思いや考えをしっかりと理解し，話合いを進行する力を身に付けさせるために，どの児童も司会の役割が経験できるよう立場や意図を明らかにしながら計画的な話合い活動を多く位置付けてきました。

中学校第１学年の話し合うことに関する指導事項は，「話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり，相手の発言を注意して聞いたりして，自分の考えをまとめること」です。

その話合いにおいては，参加者一人ひとりが話合いの目的とその必要性について認識するとともに，「今，何について，どのように話し合っているのか」という話合いの方向性をとらえて，その内容に応じて発言する力が求められます。そのために，発言者は，話合いが円滑に進展するよう自分の発言内容を吟味することが大切です。また，話合いの論点や発言者の内容の整理や，発言の促しなどの司会者の役割を振り返らせ，既習の事項について改めて理解させることが大切です。

日常生活の中の話題について話し合う場面だけではなく，日ごろから少人数やグループ学習などの話合い活動においても，提案者，司会者など役割分担を位置付け，既習事項について様々な機会をとらえて習熟させていく学習をしましょう。

(2) 意味内容と表現の特徴を関連付けた授業を意識しましょう。

4	(4)　場面の描写と登場人物の様子を読む。	正答率 52%

ア　出題の趣旨

文学的な文章において，場面の描写をとらえて読むことができるかどうかをみる問題です。

登場人物の心情は，場面描写などをとおして暗示的に表現されている場合もあることから，表現の仕方にも注意して想像を豊かにしながら読む能力が求められます。

イ　指導上の留意点

平成 25・26 年度岩手県学習定着度状況調査（第５学年）の結果から，「場面の描写と登場人物の様子を読む」ことにおいて，記述，選択の正答率は，20～40%にとどまっている状況が継続して見られます。登場人物の心情をとらえる際，「情景」や「象徴性や暗示性の高い表現」などの「表現の仕方」に気を付けて読む力が十分に身に付いているとはいえません。

中学校第１学年では，第５学年及び第６学年の登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめる学習を受けて，指導事項エ「文章の構成や展開，表現の特徴について自分の考えをもつこと」につながります。

登場人物の心情の変化について，場面や展開とかかわらせて，その効果を考える指導を意識する必要があります。物語における表現の特徴（会話の多用，語り手の位置付け，時系列の構成の工夫，比喩表現，情景描写など）を取り上げて分析的にとらえながら，その効果について自分の考えをもつ学習活動を授業の中に位置付けましょう。その際，意味内容と表現の特徴を関連付けながら読むことの授業を展開していきましょう。

(3)　文章全体における段落の役割をとらえ，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする学習活動を行いましょう。

5	(2) 段落相互の関係をとらえる。	正答率 48%
	(3) 必要に応じて，文章の内容を要約する。	正答率 38%

ア　出題の趣旨

説明的文章において，(2)は段落相互の関係をとらえて読むことができるかどうか，(3)は提示された文章の一部を，重要語句に着目しながら，要約して短くまとめることができるかどうかをみる問題です。

自分の考えが明確になるような文章の構成に着目して，事実と意見とがどのように区別されているのかを把握して段落のつながりをとらえて読んだり，文章における事実と意見の記述の仕方の違いについて気付いたりする力が求められます。

イ　指導上の留意点

小学校では，目的に応じて中心となる語や文をとらえて，段落相互の関係や，事実と意見との関係を考えて読むことを学習していますが，正答率やこれまでの県学習定着度状況調査の課題から，話題や構成などに注意して筆者が自分の考えを読み手に説得力のあるものにするために，どのような事例を挙げてその理由や根拠としているのかなどに気を付けて読む力が十分身に付いているとはいえません。

これは，中学校第１学年の指導事項イ「文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などとを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること」につながることから，次のような指導の必要があります。

それは，論の展開の中心となる部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分とが組み合わされていたり，事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されていたりするなどといった説明的文章の特徴を踏まえて読んでいく学習です。

また，要約したり要旨をとらえたりする活動は，目的や必要性を生徒にもたせることが重要です。目的によって取り上げる言葉や文，キーワードが変わることを生徒に実感させる学習活動を授業の中に位置付けましょう。本調査で出題した文章を使って，単元を貫く課題解決的な活動の一例を紹介します。

【文章全体における段落の役割をとらえ，目的に応じて要約する活動を位置付けた展開例】

教材例　板倉聖宣（いたくらきよのぶ）「ジャガイモの花と実」より（平成 27 年岩手県新入生学習状況調査国語 5 ）

目的に応じて要約して説明する

学習の流れ

『動物の再生と植物の再生の違いについて紹介カードに書いて小学校６年生に説明する』という言語活動を設定する。

本文を読み，筆者の中心となる考えをつかみ，学習の見通し（読む目的）をもつ。

段落相互の関係を正しく押さえ，文章全体における役割をとらえる。

① 段落ごとに筆者の考えの根拠としている事例についてまとめ，事実と意見などとを読み分ける。
② 文章全体の中での各段落の役割を考える。
- １段落：筆者の結論
- ２段落：動物での「なくなったからだの一部」の生えかわりの事例
- ３段落：なくなったものがまた生えてくる生物の「再生」の事例
- ４段落：植物での「一部からじぶんの体を全部うまれかわらせる」再生の強さの事例

〔段落相互の関係〕１段落の結論を説得力あるものにするために，結論とその根拠という配列関係になっている。

動物の再生と植物の再生の違いについて，条件に合わせて紹介カードを書き，説明する。

③ 動物の再生と植物の再生の違いについて説明するために，紹介カードに書く。
　☆ カニのはさみの再生とタンポポの根の再生の事例を取り上げながら，「一部」と「全部」という言葉を使って再生の違いを要約する。
④ 要約する際，個々に考えたことを生徒相互で説明し合ったり，要約の妥当性を検討したりする。